

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 事例報告書



令和8年3月19日

岡山っ子育成局 子育て支援部

地域子育て支援課



# は じ め に

平成24年度より、公民館単位での取り組みとして始めた「防災キャンプ推進事業」ですが、町内会や婦人会、消防団をはじめとする地域団体のみなさま、そして児童・生徒のみなさま、ご家族のみなさまなど、多くの方々のご協力・ご参画のもと令和7年度は13公民館で計18回開催・延べ498人の児童・生徒等が本事業へ参加していただき、無事に事業を終えました。

令和7年度は、記録的短時間大雨情報が150回以上発表されたり、令和8年1月の島根県東部地震では、岡山市でも震度4を記録したりするなど、改めて防災教育の重要性は高まっており、実施状況をみなさまと共有し、継続した防災教育の実施のほか、新しく本事業に参加する際に役立てていただきたいと考えています。

最後になりましたが、公民館職員及び地域担当職員の方々をはじめ、みなさまのご協力により円滑に事業を実施することができました。事業実施にあたりご尽力を賜りましたみなさまに、心からお礼申し上げます。

令和8年3月 岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課

# 目次

## I 令和7年度防災キャンプ推進事業実績

操山公民館	1
津高公民館	5
高松公民館	9
吉備公民館	16
上道公民館	22
足守公民館	26
旭東公民館	29
福浜公民館	33
光南台公民館	37
御南西公民館	41
御津公民館	45
建部町公民館	49
瀬戸公民館	53

## II 資料編

参加実績推移(令和3年度～令和7年度)	57
---------------------	----

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立操山公民館

実施施設名

岡山市立操山中学校

## 1. 事業趣旨と目的

災害発生時、自分自身で命を守るために必要な知識や対応方法を学び、防災意識の高揚を図る。また、地域住民が集うことにより、児童生徒と地域住民の交流の機会とし、共助できる関係づくりの一助とする。

## 2. 実施内容

事業名称	宇野学区日帰り防災キャンプ			
実行委員会名称	宇野学区日帰り防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年12月7日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	
	受付訓練	地域ボランティア	避難所開設の受付訓練を行う。	0.5 時間
	簡易ベッド・トイレ・パーティション組立	岡山市危機管理室、地域ボランティア	危機管理室職員の指導で組み立て訓練を3グループに分かれて行う。	3 時間
	救急救命講習	中消防署、地域ボランティア	人形、AEDを使つての実践。3グループに分かれて行う。	3 時間
	毛布体験・消火器取扱い	消防宇野分団、地域ボランティア	毛布に寝てみる体験、消火器扱い訓練を、3グループに分かれて行う。	3 時間
	30年豪雨写真展示	地域ボランティア	30年豪雨の地域の被害の写真をパネルにして展示。	3 時間
	備蓄食試食場	地域ボランティア	アルファ化米、ライスクッキーの試食	1 時間
合 計			7.5	時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	10 名	中学生	2 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	4 名	家族・地域住民	66 名	教職員・施設職員等	2 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)		1 名	無償ボランティア		70 名
総 計			155 名		

## 4. 実行委員会実績

構成員数	75 名	主な構成員	連合町内会、コミュニティハウス運営委員会、社会福祉協議会、婦人会、民児協、愛育委員会、交対協、交通安全母の会、環境衛生協議会、スポーツ協会、老人クラブ連合会、消防団宇野分団、小学校PTA、宇野小学校、宇野認定こども園、原尾島こども園、操山中学校、うのクラブの各代表者、公民館		
会議内容	会議日	場 所	協議内容等		開催時間
	9月17日(水)	宇野学区コミュニティハウス	第1回宇野学区防災訓練小委員会		2 時間
	10月30日(木)	操山公民館	第1回宇野学区防災訓練全体会		2 時間
	11月19日(水)	宇野学区コミュニティハウス	第2回宇野学区防災訓練小委員会		2 時間
	11月27日(木)	操山公民館	第2回宇野学区防災訓練全体会		2 時間
	12月25日(木)	宇野学区コミュニティハウス	防災訓練反省慰労会		2 時間
合 計			10 時間		

公民館名	操山公民館
実施施設名	岡山市立操山中学校

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	宇野学区日帰り防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 8 年 1 月 26 日 から 6 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	公民館口ビー展	操山公民館	宇野学区日帰りキャンプの内容をポスター展示	時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>町内会及び各種団体は、毎年活動で協力体制が充実している。現在頻発する災害や30年以内に発生が予測される南海トラフ大地震に、地域の方も危機感を感じて取り組むことができた。</p> <p>岡山市立操山中学校の体育館を会場として、簡易ベッド、トイレ、パーティションの組立訓練、救急救命講習、毛布に寝てみる体験、消火器の取扱い講習、備蓄食の試食、30年豪雨写真展示を3グループに分かれて行い、大変好評だった。特にAEDを使った救命講習では、初めて講習を受けた参加者もあり、よい経験になったと話していた。備蓄食の試食は、初めて備蓄食を食べる参加者が多く、いい経験になったとの声が多く聞かれた。</p> <p>避難訓練の最後に振り返りの時間を取り、防災士からアドバイスを受けるなど、知識を共有し、深める活動ができた。訓練の回数を重ねる毎に、参加者の防災への関心が上がってきている。</p>
今後の課題	<p>来年度は、会場が操山公民館ということもあり、過去の防災キャンプでの企画と同じでなく、公民館の中学生ボランティアグループが企画するコーナー、地域の方の防災についての発表の場、起震車体験など、新しい企画を実施していきたいと考える。そのためにも、学生ボランティア(中、高、大学生)の確保には、直前ではなく、年度の早い段階で関連機関に声をかけることの重要性を感じている。</p> <p>防災キャンプ実行委委員会のメンバーも来年度を見据えて早くも構想を考えている。</p>

## 7. 活動の様子

### 避難所受付



受付担当の皆さんが避難してきた地域の方々の対応をしています。車いすの方も来られました。

### 簡易ベッド・簡易トイレ・パーティションの組立訓練



3班に分かれて簡易ベッド・簡易トイレ・パーティションの組立訓練、救命講習、毛布体験・消火器取扱い訓練を行いました。

## 救急救命講習



岡山市中消防署の職員がAEDを使った救命講習等を行いました。初めて体験した方もおられ、「体験できてよかった。」と言われていました。

消防団宇野分団の方々の指導で消火器訓練等を行いました。

## 毛布体験・消火器取扱い訓練



## 備蓄食試食場



アルファ化米にお湯を入れ、皆さんで試食してみました。今回はドライカレーでした。



## 30年豪雨写真展示



地域の方が撮影したH30年西日本豪雨の写真をパネルにしたものを展示しました。

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立津高公民館

実施施設名

岡山市立津高公民館

## 1. 事業趣旨と目的

津高地区の児童、生徒及びその保護者並びに地域住民が、防災に関する知識及び技術等を習得し、災害に対する意識を高め、交流することにより、いざというときに備え、協力して対策を取ることができるよう、防災キャンプを実施する。

## 2. 実施内容

事業名称	津高防災キャンプ(親子で体験♪学ぼうさい!)			
実行委員会名称	津高防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年12月6日から1日間		
	第2回	令和7年12月13日から1日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話	Team桃太郎	小学生向け防災のお話「今、私たちに必要なこと」	1 時間
	消防関連体験	消防団・消防署	心肺蘇生、煙道、水消火器、地震体験車、消防車	4 時間
	非常食体験	栄養、愛育委員会	非常食(アルファ化米)を用いた炊き出しと豚汁の提供	1 時間
	仮想体験(避難所生活)	日本赤十字社	新聞紙でスリッパを作る けがをした時の応急処置を学ぶ	4 時間
	非常時持ち出し薬	しゅうじつ薬局	非常時持ち出し薬の説明、防災グッズと非常食の紹介	4 時間
合 計				14 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	23 名	中学生	21 名	高校生	4 名
未就学時・乳児	2 名	家族・地域住民	17 名	教職員・施設職員等	12 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			5 名	無償ボランティア	51 名
総 計					135 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	14 名	主 な 構 成 員	津高地区の連合町内会、高齢者クラブ連合会、愛育委員会、栄養改善協議会、消防団関係者、有識者		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	5月23日	津高公民館	事業計画(案)、事業費		1 時間
	10月6日	津高公民館	タイムスケジュール、役割分担		1 時間
	12月2日	津高公民館	タイムスケジュール、役割分担、 その他(駐車場等)		1 時間
	2月2日	津高公民館	反省(アンケート結果)、来年度事業		1.5 時間
	合 計				

公民館名

岡山市立津高公民館

実施施設名

岡山市立津高公民館

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	津高防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 8 年 3 月 18 日 から 210 日間		
	第2回	令和 8 年 11 月 1 日 から 150 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
			写真を中心に、視覚に訴えた防災キャンプの記録を津高公民館のロビーに展示	時間
			写真を中心に、視覚に訴えた防災キャンプの記録を中学生が作成し、津高公民館のロビーに展示	時間
				時間
				時間
				時間
合 計				0 時間

### 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係団体等の協力により、小学生やその保護者をはじめ地域住民の防災意識を高めることができた。</li> <li>・学生スタッフの充実がみられた。(中学生スタッフ12人、高校生スタッフ2人)</li> <li>・非常食や防災グッズを用意する必要性を十分に感じることができた。</li> <li>・学生スタッフが防災に関する知識や技術を習得し、それを小学生に指導する。その後方から消防団等大人のスタッフが支援するという流れで事業を実施することができた。</li> <li>・学生スタッフは、自主的かつ意欲的に活動して高い評価を得た。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生等スタッフ及びイベント参加者が昨年より減少した。</li> <li>・来年度以降も事業を継続するため、今一度内容を精査したい。</li> <li>・将来的には、今年度参加した小学生とその保護者が、中学生スタッフ、高校生スタッフ、大学生スタッフ、地域スタッフとして活躍したり、実行委員として参加し、循環することを目指す。</li> </ul>

7. 活動の様子

(1) スタッフ研修 <令和7年12月6日(土) 13:00~16:00>

・学生スタッフを対象に心肺蘇生法や水消火器、煙道体験、地震体験車の事前体験及び説明会を実施。地域の消防団員が講師を務める。



(2) 親子で体験♪ 学ぼうさい！ <令和7年12月13日(土) 9:00~13:00>





心肺蘇生法



水消火器体験



地震体験車



防災グッズ・持ち出し薬について



防災グッズ作成



非常食体験



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立高松公民館

実施施設名

庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

## 1. 事業趣旨と目的

地域住民が防災訓練や救護訓練を行うことで、防災・減災意識の高揚に努める。また、訓練参加により、地域住民相互の交流を図る場とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	令和7年度 庄内学区防災訓練、加茂学区防災訓練、鯉山学区防災訓練			
実行委員会名称	庄内学区安全・安心ネットワーク、加茂学区安全・安心ネットワーク、鯉山学区安全・安心ネットワーク			
実施期日	第1回	令和 7 年 11 月 2 日 から 半 日間		
	第2回	令和 7 年 11 月 15 日 から 半 日間		
	第3回	令和 7 年 12 月 7 日 から 半 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	消防車両の見学	岡山西消防署	起震車、消防車両の設備・乗車体験	2.0 時間
	心肺蘇生体験	岡山西消防署他	心肺蘇生の基礎、AEDの使い方の訓練	4.5 時間
	応急措置訓練	岡山西消防署他	怪我や骨折時に身近なもので対応する訓練	4.5 時間
	パネル展示	岡山市危機管理室	被災地のパネルを見学	2.0 時間
	安否確認	安全・安心ネットワーク	招集時の名前、人数確認	1.5 時間
	消火体験	岡山西消防署	消火の訓練	2.0 時間
	非常持出品の展示	危機管理室、消防団	一般的な持ち出し品の展示と見学、重さ確認	6.0 時間
	起震車体験	岡山西消防署	起震車で震度5程度の揺れを体験	4.0 時間
	簡易トイレの展示	安全・安心ネットワーク	段ボールトイレ完成品の展示・見学	2.0 時間
	簡易テント・ベッドの組立て	岡山市危機管理室	段ベッド・テントの組立・展示・見学	4.0 時間
	備蓄品の場所確認	鯉山・庄内小学校	校舎内に備蓄されている災害備蓄品の設置場所と現物確認	4.0 時間
	防火服試着体験	岡山西消防署	消防現場で着用する防火服を実際に着用	1.0 時間
	DVDの視聴	岡山中央図書館	地震・水災のDVDを視聴覚室で視聴する	1.0 時間
	食器、スリッパ作り	愛育委員会	チラシや新聞紙などで災害時に使用できるスリッパや食器を作る。	2.0 時間
食料調達訓練	愛育委員会・栄養改善協議会、婦人会	アルファー化米の試食、炊き出し支給時の秩序の維持訓練	2.0 時間	
合 計				42.5 時間

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

### 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

未就学児・乳児	29	名	小学生	49	名	中学生	0	名
高校生	0	名	家族・地域住民	218	名	教職員・施設職員等	9	名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0		名	無償ボランティア	147	名
総合計							452	名

### 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	65名	主な構成員	連合町内会、消防団、施設職員、青パト隊、民生・児童委員、保育園、幼稚園、小学校、愛育委員会、婦人会、栄養改善協議会、電子町内会、老人クラブ、体育協会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、郵便局、公民館	
会 議 内 容	会議日	場 所	協議内容等	開催時間
	9/5, 10/3, 10/24	高松公民館	加茂学区防災訓練実施について	3 時間
	9/2, 10/3	高松公民館	庄内学区防災キャンプ実施について	2 時間
	5/11	鯉山コミュニティーハウス	鯉山学区防災訓練実施について	2 時間
	11/24	庄内小学校	庄内学区防災キャンプの結果の振り返りと反省、今後の活動について	1 時間
	11/15	高松公民館	加茂学区防災訓練の結果の振り返りと反省、今後の活動について	1 時間
	12/7	鯉山小学校	防災キャンプの結果の振り返りと反省、今後の活動について	1 時間
	合 計			10 時間

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	令和7年度高松地区防災訓練発表会			
実 施 期 日	第1回	令和 8 年 1 月 17 日 から 半 日間		
	第2回	平成 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	訓練発表	庄内学区、加茂学区、鯉山学区、各安全安心ネットワーク	各小学校校区で実施された防災訓練の実施報告と次年度に向けた課題発表	1 時間
	講評・講演	岡山市下水道河川計画課	地域の防災活動(高松地区を含めて)	1 時間
	講師に質問・話し合い	庄内学区・加茂学区・鯉山学区各安全安心ネットワーク	講演に対する質疑応答及び地域防災に生かすための意見交換	1 時間
合 計			3 時間	

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>※各地域における年間の必須行事として、準備から実施まで地域に定着してきている。</p> <p>・庄内学区では、今年度も町内の会長・副会長・誘導員など、役を担っている方を中心に、小学校に災害で避難した際、どこに備蓄品やテントがあるかを知ってもらい、一次避難時の対応を経験してもらうことで、災害初期時のリーダーとしての役割を期待し、実施した。今年度は炊き出しも行い、地域内の融和が促進された。</p> <p>・加茂学区では、水害の危険が隣り合わせにある。毎年、河川敷でこの訓練を行うことは、水に対する真摯な向き合いでもある。今年も、多くの住民が参加した結果は成功と言える。</p> <p>・組織の役職者が役割を果たし円滑に進行できたことに、各人の自覚が感じられる。また、炊き出しを実施したことや、無事に各行事を完遂できて「絆」の確認ができた。</p> <p>・鯉山学区では、小学校体育館内と運動場で実施した。地震災害DVDの鑑賞、テント・ベッドの組立ての実施、災害時の持ち出し袋の確認などをおこなった。屋外では、起震車の乗車体験、水道局による給水設備の実地・説明など、ためになった。</p>
今後の課題	<p>・庄内学区 昨年と同様の訓練を行った。町内の代表者は毎年変更する地域もあるので、継続した取り組みを行い、地域での対応力の向上を目指していく。</p> <p>・加茂学区 町内会単位の避難訓練・・・避難行動の周知、ルートの確認、合図の周知 町内会単位の自主防災会の設立促進・・・防火・防災の実践訓練</p> <p>・鯉山学区 役職者への普及を目的として、この2年実施してきた。役職者への浸透は図られた感がある。今回、参加者の減少がみられた。今後、若い人にもっと参加してほしい。日頃から、防災について、学び・準備を行っていく。</p>

## 7. 活動の様子

・令和7年度庄内学区防災デイ・キャンプ(庄内小学校 体育館)

今年度の目的は、避難所の準備と運営。各町内会長による受付から始まり、岡山市危機管理課2名による、避難所の開設に対する講演、小学校内の備蓄品の場所確認を行い、参加者が体育館へ搬入し、簡易ベッド・テントの組立てを行った。また、防災グッズの展示及び解説を受け、自身の防災グッズとの確認を行った。



受付体験



危機管理室講師の説明



会場づくり(区分け)



持ち出し袋の説明



心肺蘇生体験



水災DVD視聴

・令和7年度加茂学区防災訓練（足守川河川敷）

今回の狙いとして、消火訓練、食器・スリッパ作り体験、起震車乗車体験、炊出し等を行い、防災意識の定着と訓練を通じて、学区の一体感の醸成を目指し、達成できた。



受付風景



煙道体験



3D消火体験



スリッパ作り体験



起震車乗車体験



炊出し訓練

・令和7年度鯉山学区防災訓練（鯉山小学校、体育館）

今年度も避難所準備と運営を主目的として防災訓練を実施した。会場準備から地域の方に参加を促し実体験として経験を積んでもらった。特に震災体験のDVD鑑賞、避難持ち出し袋の確認等には現実的な質問があった。



参加者集合状況



会場準備



講義準備



心肺蘇生



起震車体験



水難災害DVD視聴

公民館名 岡山市立高松公民館

実施施設名 庄内小学校、足守川河川敷、鯉山小学校

・令和7年度高松地区防災訓練発表会（岡山市立高松公民館2階 研修室、第2講座室）

令和8年1月17日(土)18名が参加。講師として岡山市下水道河川計画課井上様を迎えて開催した。

最初に各小学校区で実施した防災訓練の発表があり、訓練内容の良かった点、今後の課題などを発表し情報を共有した。その後、井上様による「防災に対する取組」のテーマで講演が行われ、引き続き参加者による「これからの防災訓練」のテーマで討議が行われた。

【参加者による主な問題点】

- ・参加者が固定化している。若い人の参加を促していく必要がある。
- ・リーダー養成が必要。日頃から防災について学び、準備していく必要がある。
- ・町内ごとの、きめ細かい防災訓練も必要である。

参加者は活発な意見交換を行い、今後の防災訓練の取り組みを学んだ。



全体風景



岡山市下水道河川計画課井上様による講演



防災訓練の発表風景



防災訓練の発表風景



防災訓練の発表風景



各班での討議

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立吉備小学校

## 1. 事業趣旨と目的

自助・共助に重点をおいた実習を計画し、住民と地域活動団体が協力して地域防災力を高めることを目的とする。様々な災害に備えて、避難所が開設された際の備蓄、避難経路、避難所運営の体制づくりと防災リーダーの育成をめざす。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	第14回吉備学区防災キャンプ			
実行委員会名称	吉備学区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年10月4日から1日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	AED訓練	岡山西消防署	心肺蘇生、AED操作	0.4 時間
	煙道体験	岡山西消防署	火災の煙から身を守る避難	0.4 時間
	簡易トイレ	危機管理室	簡易トイレの備蓄、使用方法	0.4 時間
	防災紙芝居	中学生ボランティア	台風接近時の避難方法と注意事項	0.4 時間
	新聞スリッパ・食器づくり	中学生ボランティア	新聞を折って食器、スリッパ作り	0.2 時間
	車いすの介助方法	岡山市社協	車いすの押し方、見えない方の避難誘導	0.4 時間
	まっくらレスキュー迷路	ファーストレスキュー(株)	暗闇で姿勢を低くして避難する体験	0.2 時間
	防災グッズ展示	(有)ケイオス	最新の防災グッズ展示、非常食試食	0.2 時間
	ロープワーク	ボーイスカウト都窪第2団	災害救助ロープワーク	0.4 時間
	非常食配給・パッククッキング展示	民生委員・愛育委員・栄養改善協議会	炊き出し展示と備蓄食料の支給	0.4 時間
合 計			3 時間	

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	36 名	中学生	16 名	高校生	名
未就学時・乳児	2 名	家族・地域住民	24 名	教職員・施設職員等	3 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			2 名	無償ボランティア	43 名
総 計					126 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	23 名	主 な 構 成 員	連合町内会、中学校、小学校、小・中PTA、民生委員・児童委員、愛育委員、体育協会、消防団、老人クラブ、婦人会、栄養改善協議会、ボーイスカウト、防災ボランティア、ちちとこくらぶ、吉備公民館	
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開 催 時 間
	5月8日	吉備公民館	防災キャンプの概要・チラシ(案)	1 時間
	6月6日		実施計画	1 時間
	9月11日		日程と役割分担	1 時間
	11月15日		アンケート結果報告と反省会	1 時間
合 計			4 時間	

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立吉備小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行事名称	吉備公民館ロビー			
実施期日	第1回	令和 8 年 4 月 から 1 年 間 (予定)		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	ロビー展	公民館職員	吉備公民館事務所窓口上部に掲示し、年間を通して地域への周知を図る。	1 年間
合 計				時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生ボランティアの活躍 吉備中学校にボランティア募集を行い、12名が活動した。訓練当日の実習内容について、9月6日に陵南学区と合同の「防災キャンプ準備会」を吉備公民館で実施した。実行委員と中学生が紙芝居、新聞食器づくり、車いすの押し方、見えない方の誘導の仕方などを当日に備えて練習し、本番で力を発揮することができた。</li> <li>・企業の協力 昨年とは別の地元企業の参画があった。実行委員にも加わり、子どもたちにも楽しく分かりやすく防災を伝える実習を提案いただいた。また、別の企業には、防災用品の展示と非常食(レトルト)の試食についても協力いただき、備えについて学ぶことができた。</li> </ul>
今後の課題	<p>参加者アンケートには「めいろがたのしかった」「しんぞうマッサージが大切とわかった」「(紙芝居をみて)いのちがたいせつとわかった」など書かれ、子どもたちにも理解できる活動内容であったことが分かった。今後もより楽しく、わかりやすく、役立つ実習を考えて、参加者を増やしていくことが課題である。</p> <p>反省会では、スタンプラリー形式への変更や、炊き出し訓練の工夫など意見が出された。これらの意見も次年度の計画に反映させていきたい。</p> <p>また、PTAや体育協会など若手の委員が中心となって実施する予定だった「マンホールトイレの設置訓練」は雨天のため実施内容を変更したので、改めて実習の機会を設けるなど、今後も地域が主体となって運営する避難所を目指す訓練を計画していく。</p>

公民館名

岡山市立吉備公民館

実施施設名

岡山市立吉備小学校

### 7. 活動の様子

令和7年10月4日(土) 第14回吉備学区防災キャンプ 参加者数126名(内スタッフ64名)

雨天のため実習をすべて体育館で行った。吉備中学生のボランティア12名も事前の準備会どおり活動できた。今年できなかったマンホールトイレの設置訓練は別の機会に実施したいとの意見があった。

受付



開会式



非常持ち出し品確認



AED訓練



煙道体験



簡易トイレ



車いすの押し方



ロープワーク



防災紙芝居



まっくらレスキュー迷路



防災グッズ展示



新聞食器づくり



ソーラー発電



スポットクーラー



非常食配給



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立陵南小学校

## 1. 事業趣旨と目的

自助・共助に重点をおいた実習を計画し、住民と地域活動団体が協力して地域防災力を高めることを目的とする。様々な災害に備えて、避難所が開設された際の備蓄、避難経路、避難所運営の体制づくりと防災リーダーの育成をめざす。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	陵南学区防災訓練			
実行委員会名称	陵南学区防災キャンプ実行委員会			
	第1回	令和 7 年 10 月 12 日 から 1 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	煙道体験	岡山西消防署	火災の煙から身を守る避難	0.4 時間
	土のう積み	消防団	内水氾濫への備え、土のうの作り方、積み方	0.4 時間
	簡易ベッド組み立て	中学生ボランティア	簡易ベッドの組み立て・展示	0.4 時間
	新聞スリッパ・食器づくり	中学生ボランティア	新聞を折って食器、スリッパ作り	0.4 時間
	車いすの介助方法	岡山市社協	車いすの押し方	0.4 時間
	まっくらレスキュー迷路	ファーストレスキュー(株)	暗闇で姿勢を低くして避難する体験	0.4 時間
	防災グッズ展示	(有)ケイオス	最新の防災グッズ展示	0.4 時間
	非常食配給	愛育委員	備蓄食料の支給	0.4 時間
合 計				3.2 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	61 名	中学生	9 名	高校生	名
未就学時・乳児	名	家族・地域住民	128 名	教職員・施設職員等	5 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	53 名
総 計					257 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	35 名	主 な 構 成 員	陵南学区安全安心ネットワーク、吉備公民館	
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開 催 時 間
	6月27日	陵南コミュニティハウス	実施計画、チラシの配布	1 時間
	10月3日		日程と役割分担	1 時間
	10月24日		アンケート結果報告と反省会	1 時間
合 計				3 時間

公民館名	岡山市立吉備公民館
実施施設名	岡山市立陵南小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行事名称	陵南コミュニティハウスでの展示			
実施期日	第1回	令和 8 年 4 月 から 1 年 間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災学習発表会	陵南小学校5年生	2/27(金)5年生廊下に展示し、全教職員、全児童にその他の展示物とあわせて内容を周知した。	1 日
	ロビー展	公民館職員	陵南コミュニティハウスに掲示し、年間を通して地域への周知を図る。	1 年間
合		計		時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生ボランティアの活躍 吉備中学校にボランティア募集を行い、9名が活動した。訓練当日の実習内容について、9月6日に吉備学区と合同の「防災キャンプ準備会」を吉備公民館で実施した。地域の方と中学生が新聞食器づくり、車いすの押し方、見えない方の誘導の仕方などを当日に備えて練習し、本番で力を発揮することができた。</li> <li>・学校との連携 陵南小学校の5年生の総合学習の授業では、地域防災をテーマに公民館館長と地域の方が出前授業を行ってきた。その成果の一つとして、当日は自主的に参加する児童が多かった。</li> <li>・企業の協力 昨年とは別の地元企業が参画し、子どもたちに楽しく分かりやすく防災を伝える実習を行った。また、別の企業には防災用品の展示に協力いただき、日頃の備えについて学ぶことができた。</li> </ul>
今後の課題	<p>反省会では、今後行いたい訓練として、「水害時の避難訓練」「高齢者、障がい者の誘導の仕方」「白石水門(ポンプ場)の見学」「炊き出しの訓練」などの意見が出された。これらの意見を取り入れ次年度に向けて計画していきたい。</p> <p>今年度もスタッフとして参加された方が事前に決めた役割分担に基づいて活動した。共助のまちづくりを目指し、実際の災害時でも地域で声を掛け合って避難し、避難所を運営できるよう、今後も訓練を経験する参加者とスタッフを増やしていくことが課題である。</p>

令和7年10月12日(日) 陵南学区防災訓練 参加者数257名(内スタッフ68名)

晴天に恵まれ、計画通り実習をすべて行った。シニアから若いPTAスタッフまで役割を分担した。全13町内会から様々な世代の参加があり、吉備中学校のボランティア9名も事前の準備会どおり活動できた。

受付



開会式



土のう作り方・積み方



煙道体験



起震車



消火器訓練



簡易ベッド組み立て



まっくらレスキュー迷路



防災グッズ展示



車いすの押し方



ソーラー発電



防災展示



非常食配給



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

上道公民館

実施施設名

岡山市立平島小学校 体育館

## 1. 事業趣旨と目的

7年前に西日本豪雨の被災地となったため、水害に対する認識はあるが、地震に対する意識はまだ低い。  
能登半島地震をうけ、児童・生徒等と地域住民が、この機に地震発生時の対処法についての知識や備え等について学び、防災意識の高揚を図る。  
また、地域住民が集うことにより、住民同士で共助できる関係をつくる一助とする。

## 2. 実施内容

事業名称	平島学区安全安心ネットワーク祭(防災キャンプ)			
実行委員会名称	平島学区安全安心ネットワーク			
実施期日	第1回	令和7年6月1日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	特殊詐欺予防	県警東署生活安全課	特殊詐欺に遭わないための講話	0.5 時間
	家具転倒防止ま ちがいさがし		家具転倒防止の対策ができていない部屋の絵と できていない絵を見比べて、まちがいを探す	0.25 時間
	災害伝言ダイヤ ル(171)体験	NTT西日本(株)	災害時の情報伝達のための方法を学ぶ	0.25 時間
	防災クイズ なまずの学校		災害時のトラブルに対応するために、どのよう に身近なものが使えるかを考えるクイズ	0.25 時間
	非常用トイレの 使用法		組立トイレ・便袋・凝固剤の使い方を体験	0.25 時間
	AED体験	消防上道出張所	胸骨圧迫とAED使用についての実習	0.5 時間
	応急手当	日本赤十字岡山県 支部	身近にある物を使って、止血や骨折の処置を 学ぶ	0.25 時間
	水消火器	消防 平島分団	水消火器を使って消火器の使い方を学ぶ	0.25 時間
	防災グッズ展示	ナンバホームセン ター	家具固定、非常持出品など、防災グッズをみ て、使い方を知る	0.25 時間
合 計				2.75 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	2 名	中学生	6 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	1 名	家族・地域住民	54 名	教職員・施設職員等	8 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			4 名	無償ボランティア	96 名
総 計					171 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	39 名	主 な 構 成 員	連合町内会、愛育委員会、民生委員児童委員協議会、平島健康福祉委員会、スポーツ協会、老人クラブ、交通安全対策協議会、交通安全母の会、小学校PTA等		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開催時間
	2月18日	平島小学校	防災キャンプの実施について		1 時間
	3月13日	上道公民館	実施内容について		1 時間
	5月11日	平島小学校	役割分担等について		1 時間
	5月27日	上道公民館	博割分担等最終打合せ		1 時間
	7月22日	平島小学校	防災キャンプの振り返り		1 時間
合 計					5 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称							
実 施 期 日	第1回	令和	年	月	日	から	日間
	第2回	令和	年	月	日	から	日間
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要			活動時間	
						時間	
						時間	
						時間	
						時間	
合 計						0 時間	

6. 成果と課題

今年度の成果	<p>必要な体験は、昨年度に引続き経験できるようにした方が良いという実行委員の意見から、昨年と同様に色々な体験ブースを設けて、スタンプラリー形式ですべてのプログラムを体験できるようにした。今年度は、子ども達に人気の「水消火器」の体験や、「身近な物を使っての応急手当の方法」を加えることにより、参加者はもとより、体験ブースを担当したスタッフにとっても、新しい学びを得ることにつながった。</p> <p>今回は、防災キャンプが2回目ということで、スタッフも説明の仕方などにも慣れてきており、スムーズに対応できるようになってきている。</p> <p>参加者からは「備えておかなければいけない物、事がたくさんあることに気付いた。」「とても良い内容なので、もっと多くの人に来てもらえるようにしたらいいと思う。」などの声が聞かれた。</p>
今後の課題	<p>地域全戸および小学校児童全員に広報チラシを配布したり、昨年度の様子が変わる掲示物を小学校に展示したが、前日に小学校の運動会があり、キャンプ翌日の月曜日は、運動会の代休になっていなかったこともあり、小学生の参加者がとても少なかった。</p> <p>また、栄養改善協議会の意見により、時期的に食中毒の恐れがあるということから、炊出しおよび備蓄食材の試食体験ができなかったことも、参加者が少なかった要因の一つかもしれない。</p> <p>また、開催時期が5～6月の梅雨の始まる前という日程のため、雨天を考慮し体育館内で実施しているが、外からは見えないという難点がある。せっかく良い事を行っているのだから、通りがかった人からも、やっている事が見えるようにした方がよいのではないかという意見や地域の祭りや運動会などの行事と一緒にしてはどうかという意見も出ている。</p> <p>今後は、開催時期も含め、どのような内容をどのように実施するかを地域の人々と話し合い検討することが必要である。</p>

7. 活動の様子

◆ 受付の様子



参加者が、全てのプログラムを体験できるようにウォークラリー形式で実施。受付で、プログラムを記載した用紙とお水を配布し、他者の水と紛れないように、それぞれマジックで名前または目印を記入してもらった。



◆ 家具転倒防止まちがいさがし



◆ なまずの学校(防災クイズ) ◆



◆ 災害時伝言ダイヤル171 ◆



◆ 応急手当の仕方 について実習 ◆



◆AED・心臓マッサージ◆



◆非常用トイレの使い方◆



◆水消火器消火体験◆



◆非常持ち出しグッズ展示◆



前回、乳幼児用の非常持ち出し品について知りたいという声が上がっていたので、液体ミルク等の展示も行った

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

足守公民館

実施施設名

蛍明小学校 体育館・運動場

## 1. 事業趣旨と目的

あしもり学園の児童・生徒等青少年と、地域住民が避難所体験など防災に関する体験や交流をすることで、地域における防災意識の高揚に努める。  
また、同じ蛍明小学校区の他地区(旧高田小、福谷小学区)の方々にも参加してもらうことで、蛍明小学校区全体での取り組みにつなげる機会とする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ			
実行委員会名称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 7 年 8 月 9 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	防災ゲーム	おかやまバトン	防災〇×クイズ	1.0 時間
	防災工作	おかやまバトン	防災工作-紙食器をつくろう	0.5 時間
	炊き出し訓練	みんなの食堂みらい	こども食堂活動の一環として有事のための訓練	0.5 時間
	炊き出し配食訓練	参加者	炊き出し時に混乱しないよう適切な行動をする	0.5 時間
	非常持出袋は大切	おかやまバトン	避難時に準備しておくべきものは何かをややさしく解説	0.5 時間
	北極星のを見つけ方	大井天文台	なにもない夜間に正しい方角を見つけよう	0.5 時間
合 計				3.5 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	14 名	中学生	0 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	2 名	家族・地域住民	48 名	教職員・施設職員等	0 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)		12 名	無償ボランティア		0 名
総 計					76 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	23 名	主 な 構 成 員	大井地区安全安心ネットワーク構成メンバー		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開催時間
	6月28日	福祉交流プラザ大井	防災キャンプについて説明～日程		2 時間
	7月26日	福祉交流プラザ大井	プログラム内容について		2 時間
	8月30日	福祉交流プラザ大井	ふりかえり		2 時間
合 計					7 時間

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	大井地区安全安心ネットワーク防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 8 月 22 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	報告書作成	実行委員	アンケート集計、画像編集、文章作成、印刷	2 時間
				時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

### 6. 成果と課題

今 年 度 の 成 果	<p>第4回ということもあり、実行委員会はスムーズに運営できるようになった。参加者、特に小学生の参加を促すために小学校PTAの意見を多く取り入れるようにしたところ、子供たちの関心を引き、散漫になることなく成功した。地域の防災士の協力もあり防災ネットワークを広げることができた。</p>
今 後 の 課 題	<p>地域の中高生を巻き込んだ防災キャンプにしたい。</p>

7. 活動の様子



参加受付



スタッフ打合せ



実行委員長あいさつ



スケジュール説明



防災〇×クイズ



紙食器づくり



防災クイズ なまずの学校



防災クイズ シャッフル



非常持出袋の備品と大切さを説明



配食訓練



北極星の見つけ方



副実行委員長のあいさつ

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実施報告書

公民館名	岡山市立旭東公民館
実施施設名	岡山市立古都小学校

## 1. 事業趣旨と目的

児童・生徒等の青少年と地域住民が、避難所にも指定されている小学校において、地震を想定した様々な体験活動を通して、地域における防災意識の高揚を図るとともに、児童・生徒等の青少年と地域住民間の相互交流することができる機会とする。またその後、親子で防災について考え話し合うきっかけとなることを期待したい。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	ぼうさいデイキャンプ			
実行委員会名称	古都学区防災デイキャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年11月9日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	受付 開会式	町内各関係団体	受付・班別連絡 実行委員長挨拶	0.2 時間
	体験活動	消防署・消防団 町内各関係団体	水消火器 簡易トイレ利用 心肺蘇生 AED操作	1.2 時間
	演奏・講話視聴	防災士リリーさん	EWI(イーウィ)の演奏 防災講話	1.0 時間
	閉会式 アンケート	町内各関係団体	副実行委員長挨拶 本日の振り返り	0.2 時間
	非常食試食	町内各関係団体	非常食試食 備蓄食料(参加賞)配布	0.4 時間
合 計				3.0 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	14 名	中学生	2 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	31 名	教職員・施設職員等	6 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	40 名
総 計					99 名

## 4. 実行委員会実績

構成員数	30 名	主な構成員	古都学区連合町内会 古都学区安全・安心のまちづくりの会	
会議内容	会議日	場 所	協議内容等	開催時間
	4月3日	東消防署上道出張所	防災キャンプの実施に向けて	1.0 時間
	8月28日	古都コミュニティハウス	防災キャンプの日程や役割の担当について	1.0 時間
	9月20日	古都コミュニティハウス	防災キャンプの内容と役割分担・申込方法について	1.0 時間
	11月9日	古都小学校	防災キャンプのスケジュールと役割・会場準備確認	0.5 時間
合 計				3.5 時間

公民館名	岡山市立旭東公民館
実施施設名	岡山市立古都小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行事名称	旭東公民館でロビー展示(第1回) 古都コミュニティハウスでロビー展示(第2回)			
実施期日	第1回	令和 7 年 12 月 12 日 から 約1か月間		
	第2回	令和 8 年 1 月 13 日 から 約1か月間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	ロビー展	公民館職員	活動の様子や参加者の感想が分かる模造紙を作成・掲示	5 時間
				時間
合 計				5 時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>・古都学区では今回のような子どもを巻き込んでの防災行事は初めてである。子どもを巻き込むことにより、子どもの親世代の参加も多く、防災行事に関わる参加者の幅を広げることができた。講師の防災士リリーさんからは、「参加者の方にどうだったか聞いてみましたが好評でした。初めての割にはローテーションや説明など、良い感じだったと思います。」という感想をいただいた。</p> <p>・アンケート「今日体験したことや学習したことはこれからの生活に役に立つと思いますか」に対して、「とても役に立つと思う」39名、「役に立つと思う」6名、「あまり役に立つと思わない」0名、「役に立つと思わない」0名であった。また、「これからもこのような活動や公民館などで開かれる防災講座に参加してみようと思いますか」に対しては「とても思う」31名、「少し思う」12名、「あまり思わない」2名、「ぜんぜん思わない」0名であった。事業目的の一つである「地域における防災意識の高揚を図る」ことへの一助になったと考える。</p> <p>・約40名のスタッフがそれぞれの役割を果たし、本事業を実施することができた。地域の各町内会長や関係団体が防災意識をもち、快く声掛けや担当をされて、その思いが参加した地域住民にも伝わっていたように感じる。栄養改善協議会のスタッフからは、「会場の小学校と調理をしたコミュニティハウスは離れていたけど、カレーピラフを温かいまま提供できてよかった。何より美味しいという言葉が次につながり、ありがたかった。」という感想をいただいた。</p>
今後の課題	<p>・今回の参加申込は、①回覧板のチラシへの申込用紙に記入し各町内で取りまとめ・回収 ②小学校へチラシを配布し申込欄を切り取り学校に提出・回収の二本立てで行った。①の回覧版はチラシが各家庭に残らないので、参加者なしの町内も見られた。子どもを巻き込むことが趣旨・目的でもあったので、回覧版だけでなく②の方法も取ったのはよかった。②の成果として、10家庭の参加があったが、もう少し増やしたかったところである。</p> <p>・旭東中学校区での防災キャンプは令和5年度に芥子山学区、令和6年度に可知学区、そして今回令和7年度に古都学区で実施し、3小学校区でひと通り試みることができた。来年度は夏休みに公民館を会場にして、旭東中学校のボランティア部・社会部の環境活動とタイアップして実施してみることも一案として考えている。そんなとき今回の講師リリーさんから次のような話を教えていただいた。「左の列の1番前で聞いてくれていた双子の中1の男子生徒が、終わった後に『上手かった。これからも頑張ってください。』と嬉しい感想を伝えに来てくれた。旭東公民館で夏休みだったかに魚釣りならぬ、ゴミ釣りゲームを小学生対象に行っていると。旭東中の社会部と言っていた。環境問題に取り組みられているので、またそのような機会あったら見学に行きたいので、教えてほしい。」</p>

## 7. 活動の様子

☆8:40～スタッフ集合 打ち合わせ後、担当・係ごとにそれぞれ準備をしました。

☆9:10～避難所開設 運営・受付開始



☆9:30～開会式

班別に整列して、  
①実行委員長の挨拶  
②日程説明・諸連絡  
を行いました。



☆9:40～体験活動開始 3班に分かれて班別誘導係の先導で各活動を体験しました。

①救急救命法体験

②簡易トイレの使い方体験

③水消火器体験



☆10:55～防災士リリーさんのすばらしいEWI演奏と防災講話を視聴しました。



☆12:00～閉会式 アンケート記入

☆12:10～非常食試食 パッククッキングで作ったカレーピラフをいただきました。



☆12:30頃～参加賞受け取り

参加賞の備蓄食料(アルファ化米・クラッカー)を受け取り  
解散しました。

◆◆45名からアンケートの回答をいただきました◆◆

<小中学生の感想から>

- ・防災について考えてしっかり備えようと思った。今日習ったことを生かそうと思う。
- ・日頃からの準備が必要なのだとわかった。 ・ふだんできない体験できてよかった。
- ・今日は地震体験車ができなかったけれど、コンサートなどが楽しかった。
- ・コンサートでは、初めて見る楽器を見せていただき、楽しかった。

<大人の感想から>

- ・コンサートありの楽しく実践的な講座で、とてもためになりました。いつ起こるかわからない災害に真摯に向き合って考えていきたいと思います。
- ・改めて日々の防災意識の大切さを感じた。これを機会に防災に取り組みたいと思う。
- ・とても勉強になりました。もう一度非常袋を点検します。リリーさんの演奏も、とても楽しくて良かったです。 ・リリーさん とてもすてきでした。
- ・悪天候の中、来て良かったです。できることから始めます。
- ・地震体験車ができる時には、是非参加したいです。

◆◆たくさんのスタッフに支えられて実施することができました◆◆

・岡山市東消防署上道出張所	体験活動「救急救命法」「水消火器」担当
・消防団古都分団	体験活動「救急救命法」「水消火器」担当
・連合町内会(単位町内会長)	各町内の取りまとめ・名簿を公民館に郵送
・コミュニティ協議会	受付係
・民生委員・児童委員協議会	班別色ガムテープ配布係
・愛育委員会	参加賞袋詰め・配布係 非常食配布係
・栄養改善協議会	非常食買い出し・調理係 非常食配布係
・体育協会	班別誘導係
・古都の子どもを育てる会	体験活動「簡易トイレの使い方」担当
・交通安全母の会	くつ袋配布係 アンケート用紙配布・回収係
・交通安全対策協議会	駐車場係
・事務局	進行係 非常食の容器等の始末
・公民館	記録係 進行及び「簡易トイレの使い方」補助

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立福浜公民館

実施施設名

岡山市立福浜公民館

## 1. 事業趣旨と目的

- ・児童生徒等の青少年と、地域住民が災害時に必要なスキルを体験したり情報を得ることで、自分の身の安全を守ることや守り合い意識を高め、地域における防災意欲の高揚に努める。
- ・地域の諸団体や学校園と公民館の協力体制の充実を図る。
- ・地元の中高生がスタッフやボランティアとして活躍できる場を提供する。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	親子で学ぶ 防災 福浜2025			
実行委員会名称	岡山市立福浜公民館防災イベント			
実施期日	第1回	令和 7 年 12 月 6 日 から 1 日間	スタッフ研修	
	第2回	令和 7 年 12 月 13 日 から 1 日間	当日	
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話	First Rescue	防火、防災に役立つ身近なお話	1 時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法・煙道体験・水消火器・災害VR	4 時間
	緊急時体験	ボーイスカウト	簡単ロープワーク	4 時間
	非常食体験	栄養改善協議会	アルファ化米とカレーライス炊き出し	4 時間
	仮想体験	日本防災士連盟 岡山県支部	応急措置	4 時間
	非常時持ちだし薬	しゅうじつ薬局 NTT西日本岡山支店	防災グッズ・災害伝言ダイヤル体験	4 時間
合 計				21 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	16 名	中学生	5 名	高校生	2 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	16 名	教職員・施設職員等	0 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	120 名
総 計					165 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	27 名	主な構成員	連合町内会長、愛育委員、栄養改善協議会、岡山トヨタ岡南店、連合婦人会、社会福祉協議会、町内会長、ボーイスカウト岡山4団、岡山市南消防署、市消防団福浜分団、First Rescue、NTT西日本岡山支店、公民館職員		
会 議 内 容	会議日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間	
	8/23(土)	福浜公民館	目的と実施内容の検討	2 時間	
	11/16(日)	福浜公民館	役割分担とスケジュールの確認	2 時間	
	1/17(土)	福浜公民館	アンケート結果と次年度に向けての課題	2 時間	
合 計				6 時間	

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	福浜公民館防災イベント第3回実行委員会			
実 施 期 日	第1回	令和 8 年 1 月 17 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	意見交換	参加者	感想や改善案等の意見交換	1 時間
	アンケート結果	公民館職員	アンケート結果の報告、反省と課題	0.5 時間
	次年度に向けて	参加者	意見交換、課題から次年度に向けての進め方	0.5 時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

### 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連合町内会会長及び町内会長、各種団体等の協力により、児童・園児、特にその保護者の方の防災に対する意識を高めることができた。</li> <li>・中高生がスタッフとして参加し貴重な経験となった。事前の研修会で学んだことを当日は子供たちに伝えたが、同時に教えることの難しさも学ぶことが出来た。</li> <li>・インフルエンザの流行により予定していた参加者が少なくなったが、そのことが逆に各ブースの体験をしっかりと学ぶことにつながった。</li> <li>・次年度の防災イベント実施に向けて課題が明確になった。</li> </ul>
今後の課題	<p>学生ボランティアの募集に工夫が必要。、チラシを配布するだけでなく、学校園に出向いて効果的な説明や紹介を行う。</p> <p>参加者のターゲットを小学生の低学年とその保護者だけでなく、地域で増えている外国の方にも広げる。日本語教室に参加している方々を中心に国際課との共催でコーディネーターやサポーターにも協力をお願いする。</p> <p>学校園のPTA、教職員や地域の育成協議会に負担のかからない形で協力やバックアップをお願いしていく。</p>

## 7. 活動の様子

### 【第一回実行委員会】



防災イベントの目的と主旨を説明して各種団体や町内会に協力をお願いした。

### 【第二回実行委員会】



実行委員の役割分担と今後のスケジュールを確認した。

### 【スタッフ研修会】



学生に消防署、消防団ボーイスカウト、日本防災士連盟岡山県支部から事前研修を受けた。

### 【講演会(防火、防災に役立つ身近なお話)】



First Rescueの代表、東山さんによる防火、防災に役立つ身近なお話を低学年の児童にも分かりやすいようにクイズ方式で学習した。

### 【簡単ロープワーク】



事前に研修を受けた学生やボーイスカウトの高校生から簡単なロープワークについての指導を受けた。保護者に対しては、さらに高度なロープワークを指導していただいた。

### 【心肺蘇生法】



岡山南消防署職員や学生から、児童や園児にもわかるようなAEDの使い方や心臓マッサージの体験をした。

### 【非常食体験(アルファ化米を使ったカレーライス、電気自動車からの給電によるコーンスープ)】



福浜、平福の栄養改善協議会や愛育委員の方々によるカレーライスとアルファ化米の試食やコーンスープでからだも心も温まることが出来た。

### 【水消火器】



事前に研修を受けた中学生や福浜消防団員から、消火器の取り扱いの指導を受けた。

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名 岡山市立光南台公民館

実施施設名 岡山市立光南台公民館

## 1. 事業趣旨と目的

- ・日頃から防災・減災に対する備えについて学習するとともに防災意識の醸成に努める。
- ・青少年と地域住民の相互交流の機会をもち絆づくりを図る。

## 2. 実施内容

事業名称	防災キャンプ			
実行委員会名称	光南台公民館			
実施期日	第1回	令和 7 年 7 月 26 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	講話	資料「岡山河川事務所」 講師 中本秀子	「逃げキッド」を利用してマイタイムラインをつくる	1 時間
	中学生ボランティア活動	岡山市危機管理室 借用	避難所の簡易ベットの組み立て	時間
	中学生ボランティア活動	南区役所地域振興課 借用	毛布で担架づくり	0.75 時間
	中学生ボランティア活動	宮浦女性防火クラブ 借用	非常持ち出し品の確認	時間
	非常食づくり	宮浦女性防火クラブ	非常食づくり「白飯・ミネストローネ・乾パンプリン」	0.75 時間
	試食・振り返り		感想・アンケート記入	0.5 時間
合 計				3 時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	4 名	中学生	7 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	0 名	家族・地域住民	20 名	教職員・施設職員等	3 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	5 名
総 計					39 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	10 名	主な構 成 員	宮浦女性防火クラブ 公民館職員		
会議内容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開催時間
	3月22日	光南台公民館	実施内容の計画		1 時間
	6月7日	光南台公民館	実施内容の確認・計画(詳細)		1 時間
	6月17日	光南台中学校	中学生ボランティア活動の準備会		2 時間
	7月4日				
	7月19日	光南台公民館	非常食づくりの確認とリハーサル		2 時間
	7月19日	光南台公民館	反省会		1 時間
合 計					7 時間

公民館名	岡山市立光南台公民館
実施施設名	岡山市立光南台公民館

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 8 月 5 日 から 約1 年間		
	第2回	令和 7 年 11 月 15 日 から 1 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	活動報告の掲示	光南台公民館 光南台中学校	光南台中学校と光南台公民館に掲示	約1 年間
	宮浦町内会への報告	宮浦町内会	防火・防災のつどいで報告	1 時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省 中国地方整備局岡山河川事務所より資料(マイタイムライン「逃げキッド」)を利用して台風や高潮災害に対する備えとしてマイタイムラインについて学び、逃げ遅れを防ぐ大切さを考えることができた。</li> <li>・非常食の調理実習は在宅避難時のパッククッキングを体験してローリングストックを利用した食の備えについて学ぶことができた。</li> <li>・中学生ボランティアと一緒に避難所の簡易ベットの組み立てや毛布を利用した担架づくり、避難時の持ち出し品の確認をすることで「避難」を自分事として捉えることができた。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイタイムラインの必要性を学ぶだけでなく、家庭での話し合いをすることで、逃げ遅れを防ぐ取組も進めていく必要がある。</li> <li>・在宅避難を想定したローリングストックを啓発するだけでなく、避難所での食事や炊き出しについても学んでいく必要性を感じた。</li> <li>・中学生ボランティアの継続だけでなく小学生・高校生へと防災に対する働きかけを広げていく必要がある。</li> </ul>

7. 活動の様子

令和7年7月26日(土) 防災キャンプ

【受付】中学生ボランティアが中心になって  
駐車場係や受付をした。



【講話】マイ・タイムラインを作ろう

「逃げキッド」を使って

①タイムラインってなに？

②過去の災害(台風・高潮)を振り返る

③潮見表を利用しよう

④地域の危険を知って自分の備えを考えよう

⑤マイ・タイムラインを作ろう

⑥グループで共有してみよう



【中学生ボランティア活動報告】

①避難所の簡易ベットづくり

実際にみんなで組み立てて座ったり横になって体感したりした。



②毛布で担架づくり

「持ち上げる時は頭から

降ろす時は足から」と声掛けをした。



③非常持ち出し品の確認

0次1次2次と段階に応じたの準備を  
考えながら見てもらった。



④非常食づくり パッククッキングを体験した。

白飯、ミネストローネ、乾パンプリン



### ⑤試食と振り返り

牛乳パックでお皿を作った。

その上に自分で作ったラップの

おにぎりを乗せ塩やふりかけをかけて試食した。



中学生ボランティアと役員で振り返りをしました。

### \*感想\*

- ・災害時には、自分でどのような対策をしたらいいかを考えたり学べたりすることができた。
- ・マイ・タイムラインを記入してどのくらいの規模の高潮がくるか知ることができてよかった。
- ・非常食を作るのが意外と簡単でびっくりしました。ミネストローネがおいしかった。
- ・マイ・タイムラインの作成や非常食づくりを自分たちで実際にして、食べたり防災グッズを見たり潮見表や過去の災害を振るなど、地域の方々と交流することができてよかった。
- ・子どもたちが参加していたので防災について次世代につなぐことができてよかった。
- ・災害が発生した際の避難のタイムスケジュールなど事前の準備の大切さを学べ大変勉強になりました。防災バッグを用意したいと思いました。
- ・マイ・タイムラインを我が家でも取り入れたい。

# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

御南西公民館

実施施設名

岡山市立西小学校

## 1. 事業趣旨と目的

- ・地域住民と将来を担う小学生、中学生が防災という目的に関わり繋がりを持つことにより、防災以外でも地域の活動に積極的に関わり世代を超えた地域の絆をつくる。
- ・災害が起きた場合、命を守る避難行動について考え、避難所などで自分にできることを体験し災害時に地域の一員として役に立つという意識を高める。
- ・避難してきた人全員で避難所を開設し、運営していく。
- ・「誰かがする」ではなく「誰もができる」西学区モデルの防災・避難訓練とする。

## 2. 実施内容

事業名称	第6回西学区防災キャンプ			
実行委員会名称	西学区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 7 年 12 月 7 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	中学生の防災ゲーム	御南中学校生徒	中学生指導で小学生と保護者に水害させかえ・きけんはっけんゲームをする	30分 0.5時間
	炊き出し	西学区栄養改善協議会	パンプリンの試食と備蓄食料の展示	20分 ×6回 2時間
	水消火器	北消防署今出張所・今分団	水消火器で水を射出して的に当てる	15分 ×6回 1.5時間
	かえる君の救出大作戦	実行委員・スタッフ・中学生	模擬瓦礫に埋まったかえる君を瓦礫の下から救出し、毛布で作った担架でベッドまで搬送	35分 ×6回 3.5時間
	ベッド・テント・持出袋・簡易トイレ	実行委員・スタッフ	ベッド・テントの組立と収納、持出袋の中身・重さ確認、簡易トイレの組立と凝固剤体験	20分 ×6回 2時間
	大声コンテスト	実行委員・スタッフ	日頃大きな声を出すことが少ない小学生を対象に助けを呼ぶ大声をだし、音量測定器で測定。	15分 ×6回 1.5時間
	災害医療講習	市民病院主任看護師	災害時に多いケガの応急処置、避難所での感染症対策	45分 0.75時間
	救急救命訓練	北消防署今出張所・今分団	胸骨圧迫・AED訓練	45分 0.75時間
	防災講習	危機管理室	参加者に配布した防災マニュアルの説明	30分 0.5時間
合 計				13時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	26 名	中学生	10 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	4 名	家族・地域住民	57 名	教職員・施設職員等	17 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	54 名
総 計					168 名

## 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	36 名	主 な 構 成 員	西学区防災連絡会、西学区連合町内会、西地区民生委員児童委員協議会、西学区愛育委員会、西学区交通安全母の会、西学区スポーツ協会、西学区婦人会、西学区栄養改善協議会、西学区老人会連合会、消防団今分団、西小学校PTA、西小学校、御南中学校、岡山市今認定こども園、ふたばこども園		
	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開 催 時 間	
	6月17日	西コミュニティハウス	防災キャンプ日程、実行委員会日程案打合せ	1 時間	

会議内容	7月11日	西小学校	防災キャンプ日程、実行委員会日程、活動プログラム案打合せ	1.5 時間
	8月5日	西コミュニティハウス	スタッフ打合せの内容確認	1 時間
	10月24日	西小学校	防災キャンプ当日のタイムスケジュールと役割分担打合せ	1.5 時間
	11月7日	西小学校	プログラム内容、タイムスケジュール、役割分担 確認、全体の流れ最終確認	1.5 時間
	12月9日	西小学校	振り返り会:気づき、改善点、次回の試みの打合せ	1.5 時間
合 計				8.0 時間

公民館名	御南西公民館
実施施設名	岡山市立西小学校

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	西学区防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 12 月 19 日 から 1 日間		
	第2回	令和 7 年 12 月 20 日 から 100 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	令和7年西学区防災キャンプ第1回実行委員会	令和7年度実行委員・スタッフ	令和7年度第6回防災キャンプ報告	1.5 時間
	写真展示		公民館のパネルに写真展示	100 時間
				時間
合 計				時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>◇例年通り、スタッフを除く参加者の約7割は防災訓練自体初めての体験で受付など基本的な訓練で避難所体験ができた。</p> <p>◇例年、西小学校の校長先生と教頭先生2人の参加だったが、今回6年生担任の先生を中心に14名の参加があり、次回から担任教諭の参加が見込める。</p> <p>◇中学生の防災ゲームでは質問に小学生は「ハイ」「ハイ」「ハイ」と大きな声で返事をして自分の言葉で答と理由を発表していたことには先生も感心した顔で見ている。子どもたちの防災への関心と知識は確実についていると感じた。</p> <p>◇今回も感想のほとんどの回答では「次の訓練には参加する」、また「帰って家族や友だちに今日の訓練の事を話す」とあり、防災意識の広がりが期待できる。</p> <p>◇新しい試みで、日頃大きな声を出すことの少ない子どもたちが災害時に助けを呼ぶことを想定し「大声コンテスト」を実施した。また瓦礫の下敷きになっているかえる君を救出する「かえる君の救出大作戦」では声掛けが大事との意識を共有した。</p> <p>◇今回、岡山市防災マニュアルと西学区防災連絡会が発刊した「防災かわらばん」を配布した。防災マニュアルを危機管理室に説明してもらう「防災講習」は多くの参加者があり関心が高かった。</p>
今後の課題	<p>◇今回も高校生の参加がなかった。西学区内に高校は無いが高校生は居るので参加 募集の方法を検討。</p> <p>◇今回も西学区の町内会長の不参加が数町内あり、防災に対する温度差があると感じ今後とも啓発活動を検討。</p> <p>◇過去6回は担当がほぼ固定されていた。スタッフは多くの担当を経験することが必要と考え、次回は希望を聞き人数調整をして、経験したことのない担当をすることを検討。</p> <p>◇避難所受付のルールを共有できていなかった。もう一度ルールの確認が必要。特に新しく担当になった人には基礎から説明が必要。</p>

### 7. 活動の様子

8:00指定職員・スタッフ・中学生集合

8:00指定職員による体育館と倉庫の開錠で本部・受付など避難所開設をスタート

▽指定職員の体育館開錠

▽中学生による備蓄食料の配給訓練

▽受付訓練



▽消防分団員も登録票記入

▽西小学校校長先生の軽い運動

▽発泡スチロールベッド組立



▽簡易トイレと凝固剤の説明

▽中学生の防災ゲーム(水害させかえ)(きけんはっけん)



▽かえる君の救出大作戦:瓦礫に埋まったかえる君に声掛けをしながら救出し、毛布の担架で



足を前にして搬送。

・スタッフを毛布で搬送してみました。重い！

▽胸骨圧迫訓練

▽AED操作訓練



・大人と子どものダミー人形を使い救急救命訓練を行いました。

▽今出張所隊員による消防車の説明   ▽一番人気の水消火器



▽非常持ち出し袋の説明

・袋の内容と重さの確認

・家庭の状況に応じて必要な物を考える。「おばあちゃんはいつもの薬、私はお菓子とゲーム！」

▽避難スペースの説明

・毛布の縦半分、約1m×2mが1人分のスペース

▽市民病院講習

・市民病院主任看護師(DMAT隊員)による災害時に多いケガの応急処置と避難所の感染症対策



・「パンプリンて何？」  
「パンプリンて初めて聞いた。」子どもも大人も興味津々でしたが、試食後は「温かくてボリュームがあり美味しかった。」と好評でした。

▽西学区栄養改善協議会さんの炊き出しと備蓄食料展示

▽栄養改善さん渾身のパンプリン



▽大声コンテスト

・日頃、大きな声を出すことの少ない子どもたちが、災害時、火災時に大きな声で知らせることができるかな。

・100dBを越えた人が何人もいました。

・助けを呼ぶには笛が最も有効で、常に携帯しておくことも重要と話がありました。

▽参加者に配布した岡山市防災マニュアルを危機管理室から説明、解説の防災講習

▽写真係として訓練スタートから終了まで活躍した御南中学校校長先生から感想の話がありました。



▽西小学校校長先生の閉会のことば

「毎回新しい試みを加えて来年も期待しています。」

▽御南中学校校長先生から「中学生は今日よくがんばりました。」



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名 岡山市立御津公民館

実施施設名 岡山市立御津公民館

## 1. 事業趣旨と目的

近年各地で様々な災害が多発し、被災は誰にとっても決して他人事とは言えなくなっている。災害時にどのように命を守るか、どこにどうやって避難するか、被災生活の困難をいかに乗り越えるか等を、家庭や地域で確認し共有しておくことが必要とされている。御津防災キャンプでは、子どもを中心に多世代が様々な体験学習を通じて共に防災力を高め、家庭や地域での備えや共助の取り組みにつないでいくことを目指している。また事前に研修を受けた中高生防災リーダーが参加者の学習のサポート役を担い、若者の地域活動参加の意欲を育む機会とする。

## 2. 実施内容

事業名称	第14回御津防災キャンプ 「体験型防災学習イベント みつ防災キャンプ まさかの災害!もしもの避難!!君ならどうする?」			
実行委員会名称	御津防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年11月22日から		1日間
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話・避難所ツール設営	岡山市危機管理室	講話「避難と避難所について」、避難所ツール組み立て体験	2時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法、水消火器、地震体験車の体験	2時間
	緊急時体験	自衛隊	ロープワーク、毛布担架作りの体験	2時間
	非常食体験	栄養委員・婦人会・愛育委員	非常食(アルファ米)を用いた炊き出しの提供	5時間
	防災ツール体験	日本防災士会	災害用ドローンシミュレーション体験、災害時非常用品展示	2時間
	防災グッズ体験	御津女性学級	防災グッズ展示、製作体験	2時間
	防災検定	運営委員・学生防災リーダー	防災問題のテスト	2時間
	非常時持ち出し薬	就実大学付属薬局	非常時持ち出し薬の説明	2時間
	緊急車輛展示	関連部署	緊急車輛を展示し見学、体験	2時間
	車いす体験	民生委員・運営委員・学生防災リーダー	車いすの操作学習、体験	2時間
	緊急車輛展示	関連部署	緊急車輛を展示し見学、体験	2時間
	災害伝言ダイヤル体験	NTT西日本 岡山支店	災害伝言ダイヤル171の使用方法学習	2時間
合 計			27時間	

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	32名	中学生	15名	高校生	4名
未就学時・乳児	4名	家族・地域住民	19名	教職員・施設職員等	4名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)		0名	無償ボランティア		65名
総 計			143名		

## 4. 実行委員会実績

構成員数	28名	主な構成員	連合町内会長、体協会長、民生・児童委員会長、青少年育成協会会長、婦人会長、愛育委員代表、栄養委員代表、消防団隊長、小・中・高代表(6校)、小中PTA会長・副会長、社協、御津支所、公民館職員		
会議内容	会議日	場所	協議内容等		開催時間
	9月4日	御津公民館	今年度の内容と進め方、役割分担について協議		2時間
	11月10日	御津公民館	当日の役割分担とスケジュールの確認		2時間
	12月4日	御津公民館	反省(アンケート結果)と来年度について		2時間
合 計			6時間		

公民館名	岡山市立御津公民館
実施施設名	岡山市立御津公民館

## 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	御津防災キャンプ第3回実行委員会			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年 12 月 4 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	アンケート結果	公民館職員	アンケート結果の報告、反省と課題	1 時間
	意見交換	参加者	感じたことや改善案等の意見交換	1 時間
	来年度について	参加者	意見交換、課題からの来年度の進め方検討	1 時間
合 計				3 時間

## 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>・災害想定イメージを明確にするため、「避難・避難所」という学習テーマを設けた。「何のための学習か」「どんな時に必要になるか」を意識することで学習効果を高め、誰にも関わる可能性のある問題提起で、避難所や被災生活の混乱でも年齢・性別・立場の違い等を認め、必要な配慮や助け合いを学ぶ成果があがった。</p> <p>・指導を依頼した協力団体は多くが継続だったが一部新規もあり、いずれも今回の学習テーマを伝え、できるだけ指導内容に反映してもらった。</p> <p>・学生防災リーダーの活躍はすでにこれまでの実績もあり、地域に定着した感がある。学生自身も役割に真摯な使命感を持って臨んでいて、参加者や協力団体から多くの好感と信頼が寄せられている。好評の事業成果はあきらかに中高生たちの活躍によるところが大きいと言える。</p> <p>・実施後のアンケートでは、家庭や地域で防災を話し合うきっかけになることが伺われた。テーマにかなった感想や普段からの備えに取り組む意欲も見られ、今後の継続希望も多かったことを大きな成果としたい。</p>
今後の課題	<p>・学校園から強力な後押しをしてもらいながらも、子どもの参加人数は減少が続いている。少子化や学校外活動の多様化を考えると、この傾向が大きく変わることはないと思われる。子どもの学習というイメージが強いことが、参加者の幅を狭めているのかもしれない。</p> <p>・防災キャンプは子どもを中心とした防災学習を主軸にしているが、子どもだけに限らず多世代の参加を募っている。もとより防災は安全安心の地域の基盤であり、地域が一体となって取り組む必要がある。広く地域一般住民の参加を促すことを進めたい。高齢者サロンや子ども会など地域の集いの会や、自主防災会や自治会の防災部門担当者に必要に応じた案内をすることも有効かと思う。</p> <p>・事業成果を上げるためには、平素から地域の防災への関心度を高めることが必要といえる。地域で防災に関わる人材の発掘に努め、必要によっては育成も試みながら、事業企画の段階から参加する人を増やすことも検討していきたい。</p> <p>・反省や課題を残しながらも、継続することが重要と考える。できれば今後も地域住民・関係機関・団体など多くの力が集結して作り上げる事業として継続し、よりいっそうの充実と改善を図っていきたい。</p>

## 7. 活動の様子

○令和7年11月22日(土)

### ◇防災講話「避難および避難所について」

災害時の判断や避難行動、事前の備えを学ぶ。



### ◇避難所ツールの組み立て体験

テント・ベッド・簡易トイレを組み立て、使い方を確認。



### ◇地震体験車

地震体験は毎年人気が高い。



### ◇水消火器訓練

水消火器で火に見立てた的をねらう。



### ◇救命救急 ①AED操作

AED装置のしくみや操作手順を学ぶ。



### ②心肺蘇生法(胸骨圧迫)

学生防災リーダーが学びをサポートする。



### ◇毛布担架づくり

毛布とパイプ棒を使って救護用担架を作る。



### ◇災害用ドローンシュミレーター操作体験

ドローンからの映像で被災状況を確認する。



### ◇車いす操作体験

「車いすを押す」「車いすに乗る」の両方を体験する。



### ◇災害用伝言ダイヤル体験

「伝言ダイヤル171」の使い方の解説を受ける。



### ◇ロープワーク

ロープで「結び方・繋ぎ方」方法を習う。



### ◇防災用品の展示

持ち出し・避難生活・備蓄のための用品展示を見学。



### ◇防災グッズ作製

新聞紙を使って折紙食器を作る。



### ◇非常食体験

アルファ化米を使った炊き出し(カレーライス)の試食。



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

建部町公民館

実施施設名

建部町文化センター

## 1. 事業趣旨と目的

建部上区の防災体制の確立を図るとともに、幼児児童生徒と地域住民が防災知識を共有することで地域における防災意識の高揚を図る。

## 2. 実施内容

事業名称	建部上区防災キャンプ			
実行委員会名称	建部上区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和7年7月19日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	開会			時間
	消火訓練	北消防署建部出張所	水消火器を使用しての消火訓練	1時間
	防災講話	北消防署建部出張所	熱中症、自宅用火災警報器の設置等	1時間
	消防車等見学	北消防署建部出張所	消防車、救急車の説明・見学	1時間
	アルファ化米試食	公民館	太陽光パネル発電機を使用した湯を使用	1時間
				時間
合 計				4時間

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	20名	中学生	名	高校生	名
未就学時・乳児	11名	家族・地域住民	70名	教職員・施設職員等	名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	19名
総 計					120名

## 4. 実行委員会実績

構成員数	10名	主な構成員	建部上区町内会役員、愛育委員、栄養委員、公民館		
会議内容	会議日	場 所	協議内容等		開催時間
	5月10日	建部町公民館	今年度の内容と準備について		1時間
	6月10日	建部町公民館	準備状況と当日の流れ・役割分担		1時間
					時間
					時間
					時間
合 計					2時間

### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	報告書展示			
実 施 期 日	第1回	令和 8 年 3 月 1 日 から 7 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	報告書展示		公民館ロビーにて報告書を展示する	時間
				時間
				時間
				時間
				時間
合 計				0 時間

### 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>・建部上区町内会では、毎年この時期に地域住民が参加して防災学習と三世代交流を兼ねた行事を行っている。子どもたちが参加しやすいように夏休みに入って最初の土曜日に実施することが恒例となっており、今年度も天候に恵まれ多くの参加者があった。</p> <p>・北消防署建部出張所職員による、水消火器を使用しての消火体験や熱中症の体験談、家庭用火災警報器の講話、救急車・消防車の見学が行われ、防災意識を高めることができた。</p> <p>・公民館が所持しているソーラー蓄電池でお湯を沸かし、アルファ化米を試食してもらった。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策</li> <li>・継続的な取り組み</li> </ul>

7. 活動の様子

受付



水消火器による消火訓練



消防署職員の講話



救急車・消防車の見学



アルファ米の試食



# 令和7年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立瀬戸公民館
実施施設名	岡山市立瀬戸公民館

## 1. 事業趣旨と目的

瀬戸地区の児童、生徒及び保護者等の防災意識の向上や防災のために必要とされる知識及び技術を習得することにより、災害に対する意識を高め、いざというときに備え、協力して対策を取ることができるようにする。

## 2. キャンプ実施実績

事業名称	瀬戸公民館防災キャンプ			
実行委員会名	瀬戸公民館防災キャンプ実行委員会(瀬戸公民館、江西学区連合町内会、瀬戸町内会、寺地町内会、肩脊町内会、森末町内会、光明谷町内会、宿奥町内会、旭ヶ丘町内会、江西学区愛育委員会、江西学区栄養改善委員会、江西地区民生委員児童委員協議会、岡山トヨタ自動車(株)、岡山市東消防署瀬戸出張所、赤磐警察署、岡山市危機管理室)			
実施期日	第1回	令和 7 年 8 月 8 日	から	1 日間
	第2回	令和 年 月 日	から	日間
	第3回	令和 年 月 日	から	日間
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話	岡山市立大元公民館館長	地域にて起こりうる災害の実情を交えながら、家にいるときに大地震が起こったら、登下校中などに大地震がおこったらなどの事例に基づき、落ちてくるもの、動いてくるもの、倒れてくるものなどをクイズ形式にて学んだ。	1 時間
	液状化実験	学生ボランティア	液状化現象の仕組みを学び、自分が住んでいる地区がどのような場所であるかなどを調べ、考える。	3 時間
	簡易トイレ実験	岡山市危機管理室	トイレの水が使えなかった際にどうするかなどを体験する。	3 時間
	応急手当方法	江西学区愛育委員会	症状の悪化を防ぐために、医療機関に搬送されるまでの間に行う処置を知る。	3 時間
	消防関連体験	東消防署瀬戸出張所	煙道体験、水消火器、地震体験車	3 時間
	防犯コーナー	赤磐警察署	防犯グッズなどを通じての啓発活動	3 時間
	防災展示、災害時に役立つ車展示	岡山トヨタ自動車	防災グッズ 非常食紹介、展示車両から防災資機材への充電	3 時間
	地域防災士による講評	防災士	今回の防災キャンプの講評	時間
	炊き出し	江西学区栄養改善委員会	災害時にできる時短カレーうどん調理	2 時間
合 計			21 時間	

## 3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	39 名	中学生	4 名	高校生	4 名
未就学時・乳児	5 名	家族・地域住民	25 名	教職員・施設職員等	0 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			3 名	無償ボランティア	42 名
総 計					122 名

公民館名	岡山市立瀬戸公民館
実施施設名	岡山市立瀬戸公民館

#### 4. 実行委員会実績

構 成 員 数	75 名	主 な 構 成 員	瀬戸公民館西学区連合町内会、瀬戸町内会、寺地町内会、肩脊町内会、森末町内会、光明谷町内会、宿奥町内会、旭ヶ丘町内会、江西学区愛育委員会、江西学区栄養改善委員会、江西地区民生委員児童委員協議会	
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間
	7月中～8月8日	岡山市立瀬戸公民館	公民館職員による準備	6 時間
	8月7日	岡山市立瀬戸公民館	町内会の資材準備と分担協議	2 時間
	8月5日	東区役所	備蓄食料等受取	1 時間
	8月7日		炊き出し訓練用食材等買い出し	2 時間
	8月7日	岡山市立瀬戸公民館	事前準備、防災資機材搬入・設置	4 時間
				時間
				時間
合 計				15 時間

#### 5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	瀬戸公民館防災キャンプパネル展			
実 施 期 日	第1回	令和 7 年	月 日 から	30 日間
	第2回	令和 年	月 日 から	日間
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	防災キャンプ写真等の展示		瀬戸公民館ロビーに活動記録写真	時間
合 計				0 時間

#### 6. 成果と課題

今年度の成果	<p>瀬戸公民館で江西学区連合町内会及び近隣の町内会などと企画運営を協働で実施し、多くの地域住民に参加いただいた。特に若い子育て世代の家族の参加者が多かった。</p> <p>また、大学生中高生ボランティア(10名)が参加し、受付、配食、液状化現象実験、応急手当方法、水消火器訓練、地震車体験などの補助を率先して活動した。</p> <p>液状化現象実験では、「自分の住む地域で起こればどうなるか」を考え、水のない避難所でのトイレ体験など避難時の活動を考える契機となった。</p> <p>災害時に役立つ訓練ができたこと、参加者の防災意識の高揚に繋がる契機になったと考える。</p>
今後の課題	<p>今回の防災キャンプで、地域に起こりうる災害の実情、家にいるとき、学校以外で災害にあった際の行動を考えること、江西学区が液状化の危険度が高い地域であることを鑑み、一人でも多くの地域住民がいつ起こるかかわからない災害に備える行動ができるよう継続的な学習の機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図りたい。</p>

## 【令和 7年 8 月8 日(金) 瀬戸公民館防災キャンプ】

### 《防災講話「みんなで考えよう地震対策！」》



### 《地震体験車》



### 《液状化現象実験》



### 《水消火器訓練》



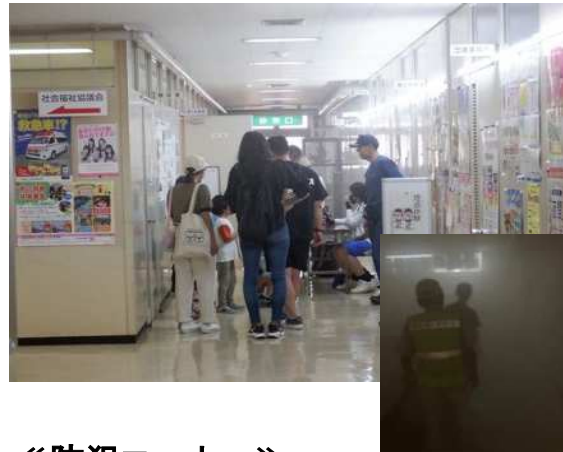
### 《簡易トイレ実験》



《応急手当方法》



《煙道体験》



《カレーうどん》



《防犯コーナー》



《災害に役立つ車展示》



《災害非常食展示》



《家庭での非常食体験》



《瀬戸町内会によるかき氷提供》



岡山市防災キャンプ推進事業参加実績(令和3年度～令和7年度)

館名	令和3年度(実績)				令和4年度(実績)				令和5年度(実績)				令和6年度(実績)				令和7年度(実績)				令和3年度～令和7年度(実績)							
	実施 日数	参加者(人)			実施 日数	参加者(人)			実施 日数	参加者(人)			実施 日数	参加者(人)			実施 日数	参加者(人)			実施 日数	参加者(人)						
		児童	生徒	合計		児童	生徒	合計		児童	生徒	合計		児童	生徒	合計		児童	生徒	合計		未就学児 見 札	児童	生徒	地域住民等	合計		
操山				0	1	18	3	94	115	1	10	47	170	227	1	4	10	2	139	155	3	4	38	52	403	497		
岡南				0				0						0							0					0	0	
岡西				0				0						0							0					0	0	
北				0				0						0							0					0	0	
西大寺				0				0						0							0					0	0	
上南				0				0						0							0					0	0	
一宮				0				0						0							0					0	0	
津高				0	1	30	13	114	157	2	33	35	105	173	2	2	23	25	85	135	5	2	86	73	304	465		
高松				0	3	61	71	337	469	3	66	3	458	527	3	0	49	0	403	452	9	0	176	74	1,198	1,448		
吉備				0	1	34	11	104	149	2	49	27	350	426	2	2	97	25	259	383	7	2	288	103	1,056	1,449		
妹尾				0				0						0							0					0	0	
福田				0				0						0							0					0	0	
上道				0				0		1	8	10	143	161	1	1	2	6	162	171	2	1	10	16	305	332		
興餘				0				0						0							0					0	0	
足守				0	1	6	1	47	54	1	18	2	65	85	1	14	0	64	78	1	2	14	0	60	76	293		
藤田				0				0						0							0					0	0	
大元				0				0						0							0					0	0	
東				0				0						0							0					0	0	
南				0				0						0							0					0	0	
旭東				0	1	45	5	140	190	1	65	5	270	340	1	5	14	2	78	99	3	5	124	12	488	629		
操南				0				0						0							0					0	0	
山南				0	1	20	9	49	78	1	50	5	220	275						0						0	0	
福浜				0				0						0	2	7	13	103	123	2	5	16	7	137	165	288		
富山				0				0						0							0					0	0	
芳田				0				0						0							0					0	0	
高島				0				0						0							0					0	0	
京山				0				0						0							0					0	0	
光南台	2	3	3	62	89	2	5	1	83	89	1	2	9	45	56	1	0	4	7	28	39	0	16	25	255	296		
御南西	1	16	15	89	120	1	15	21	111	147	1	46	20	155	221	1	4	26	10	128	168	5	4	151	79	650	884	
旭				0				0						0							0					0	0	
東山				0				0						0							0					0	0	
岡輝				0				0						0							0					0	0	
御津	1	56	24	154	234	1	53	50	230	333	2	36	56	116	208	2	22	54	116	192	1	4	32	15	92	143	708	1,110
灘崎				0				0						0							0					0	0	
建部町	1	0	1	46	47	3	41	0	130	171	2	17	0	142	159	2	40	0	134	174	1	11	20	0	89	120	671	
瀬戸	1	0	15	70	85	2	105	5	60	170	2	120	8	122	250	2	135	10	52	197	1	5	39	8	70	122	824	
万富				0				0						0							0					0	0	
合計	6	75	58	421	554	12	279	98	814	1,191	18	492	215	1,892	2,599	21	558	239	2,170	2,967	18	45	346	107	1,730	2,228	7,027	9,539



【問い合わせ先】

岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課  
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号  
電話番号:086-803-1607  
FAX番号:086-803-1718